

小学校英語活動のあり方に関する研究

箕面市の小学校英語活動は平成11年度よりおもに総合的な学習の時間において、各校の裁量によりすすめられてきた。一定の期間を経た今、「箕面市としての小学校英語活動の目的・めざす子ども像を共通理解したうえで、実施されていくことがのぞましいのではないか」ということも踏まえて今年度の研究をすすめた。

竹内理先生（関西大学教授）をスーパーバーザーとして、理論学習と授業案づくりについて、学習をすすめた。

研究員

松本 美代子	止々呂美小学校
畑田 文	西小学校
五十嵐 直人	豊川北小学校
吉田 志穂	豊川南小学校
上羽 一明	止々呂美中学校
石井 順子	第三中学校

(Ⅰ) 小学校英語活動の目的について

英語活動を通じてコミュニケーションの基礎・基本の力を育てることをおもなねらいとする。相手の目をみて聞く、相手の目を見て話す、会話が続くようにする、など、英語での学習だからこそ意識させる機会もつくりやすいし、児童も恥ずかしがらずにできる、と考える。また、小学校英語活動を通して児童全体の英語への興味・関心を育て、中学校からの英語科学習への期待感を高めたい。そのためには、児童一人ひとりの状況をよく把握し、児童一人ひとりが「やってみたらできた、うれしい」という体験を重ねられるようにつとめたい。

(Ⅱ) 年間計画作成の基本について

目の前にいる子どもたちの興味・関心を生かして年間計画をたてる。実践しながら、子どもたちが興味・関心を持ってとりくんだか、楽しんでいたか、その学年の発達段階にふさわしい内容であったか、などを振り返りながら、柔軟に修正していくべきである。ここで「発達段階にふさわしい」とは、児童の発達段階よりも少し難しい課題も含む。つまり、授業の課題の中で少しチャレンジ的なものも含めておき、「やってみたらできた、うれしい」「力をあわせればできた」と思えるような場面も授業に盛り込む、ということである。

各校のめざす子ども像をもとに、子どもの身近な生活経験からの内容を盛り込む、他教科での学習内容を盛り込む、といったことで、活動で用いた英語の子どもへの定着も促進されると思われる。

(Ⅲ) 指導者について

小学校英語活動の目的、年間計画作成の基本、を考えたとき、子どもの育ち、人間関係、その日の様子、などをよく把握している、クラス担任が指導の中心を担うことが適切である。AETなどとのチーム・ティーチングをすることがあっても、それぞれの役割分担を明確にしておくことが大切である。

- <HRT>
1. 子どもの状況を見ながら、授業を主導する。チームティーチングの時の授業進行の指示は、HRTからAETに出す。
 2. 英語活動にとりくんでいる学習者としての姿勢を子どもに見せる。
 3. 一人ひとりの子どもについて、意欲・関心、その日のターゲットが理解されているかどうかの評価をおこなう。
- <AET>
1. ネイティブとしての英語を児童に多く聞かせる。
 2. ネイティブに自分の英語が通じたという実感を児童に与える。
 3. 児童に異文化を体験させる。

各校の現状から、下記のような形態に段階的に移行していくことがのぞまれる。また、小学校英語活動について先進の教員が続く教員を育てるという意識を持って、現場の中で指導者の輪をひろげることがのぞましい。

(Ⅳ) 評価について

その日の授業での明確な目標があり、評価が存在する。その日の授業での目標について、授業の終わりに評価すればよい。授業の流れの中で教師が無理なく児童一人ひとりの定着度をチェックできる活動を盛り込んだり、最後に教室の出口に教師がいて楽しい雰囲気

児童とターゲット文を用いた簡単な会話をやりとりして順次終了、といったことが考えられる。そして、一人ひとりの定着度を記録しておき、次の授業づくりに生かす。

低学年： 意欲、関心

中学年： 単語

高学年： 自己表現

(V) 学習内容について

- (1) その学年の発達段階にそったものであること。同時に、発達段階を少し上回る内容も盛り込む。少しチャレンジ的なことへの助けは、教材や教師がおこなう。

<3・4年>

- ・楽しませることを大切にする。
- ・それほど振り返りはできない。
- ・身体を動かす、歌う。
- ・聞かせることが中心。
- ・グループで動ける。
- ・繰り返しをいやがらない。

<5・6年>

- ・振り返りができる。(振り返りカードも可)
- ・下の学年の世話ができる。
(下の学年に見せることを前提に、劇の練習をすることも可。)
- ・文字への興味がふくらむ。(メタ知識が増えてくる。)
- ・踊りや歌が苦手になってくる。
- ・心で感じるが増える。

- (2) 子どもにとって身近なものであること(必然性、必要性、を意識する)

各校でアンケートをとるのも良い方法

例) 単語： 数字、食べ物、くだもの、友達、色、家族、曜日、学用品、時間割、天体、洋室にあるもの、おもちゃ、テレビ番組、季節、乗り物、虫、動物、花、町の中の建物

表現： あいさつ、友だちを誘う、依頼する、質問する、気持ち、紹介

- (3) クラスで楽しさを分かち合えるものであること

特に、3年～5年については、机を使わず、椅子だけのスタイルがのぞましい。6年の後半については、中学校の英語科の勉強とのギャップを少なくするためにも、机のあるところでの学習スタイルも考えたい。

- (4) 異文化を知れるものであること

年に1回は、外国の行事を疑似体験する機会を持つのもよい。その時は、宗教上のことなどの配慮をしたい。クリスマス、ハロウィン、イースターなどは、一般的な行事ととらえてよいだろうか。また、外国のことだけでなく、行事など日本の文化についても盛り込みたい。

- (5) CDや地図など次年度も使えるような教材は学校で共有化する

資料などの調べ方も共有化する

授業案にも、ワンポイントアドバイスを加えていく

(VI) 単元の構成

- (1) リンキング (タテ・ヨコ)。内容によるが、1 単元 3～4 授業。
単元内最終回の目標により、各回のターゲットを決める。
学年間のリンク (積み上げて、内容を発展させ、ふくらませていく)。
- (2) 十分に聞かせること
十分に聞く経験ののち、発話ができる。口まねでボタンを覚えたのち、自分のいい
たいことを選んで発話できるようになる。
3・4 年・・・絵本などをじゅうぶんに読み聞かせる。
5・6 年・・・読ませる。演じさせる。
- (3) リサイクリング (同じことを形をかえて繰り返す)
記憶を期待せず、忘れたらまた出会わせる、ということが英語活動指導者の姿勢で
あるが、繰り返しを多く持つことで記憶に残りやすいことも事実である。
- (4) 競争の様子、ゲームの要素を入れつつ、のれない児童への配慮を忘れない。
- (5) グループ学習と個人学習のバランスが大切。「動」の活動の後は「クールダウン」の
活動を。クールダウンさせるときは、すわらせたり、読み聞かせたり。メリハリを。
- (6) 子どもの集中力を考えて、場面を展開する。
例) ・はじめのあいさつ
 ・うた
 ・活動 1
 ・活動 2
 ・活動 3
 ・ターゲットの評価
 ・うた /

(VII) 教員の研修について

- 平素の子ども観察。
担任力が強くもとめられるのも小学校英語活動。
- 授業案、教材・教具
→ 公開授業に行くなどして、具体的イメージを持つことがとても有効。
- クラスルームイングリッシュ＝50 フレーズで可能
→ はじめからフレーズ的なものを見るよりも、授業で使いそうなフレーズをメモし
て、AET に質問すればよい。その方が生きた英語であり、覚えやすい。また、校
内でそういった情報を共有することも忘れずに。
語彙の発音＝授業で使う語彙から練習すればよい、使う語彙数は限られている。
やっっていくうちに思い出せるはず。すべてネイティブのような発音にな
らなくてもよい。[b] と [v]、[s] と [t h] など、押さえておきた
い音を中心に。
→ はじめから完璧をもとめず、「授業をやってみること」から始めたい。
- AET との打合せ
授業案や教材・教具をしっかりと準備して打ち合わせる
クラス担任としての意思をしっかりと持って臨む (クラス担任は子どもを見るプロ)
AET は日本教員との打合せに慣れていきます。

低学年 (1・2) 年

学校での英語学習歴

(規定なし)

単元学習のタイトル

(Animals)

単元でのながれ (本時に☆印)

1時間目	この動物は、英語で何と言うでしょう？
2時間目	☆動物ジェスチャークイズ
3時間目	この鳴き声は、どの動物でしょう？

授業案

学習活動	☆留意点 ●準備するもの ◎資料など
1. Greeting —あいさつ “How are you today?” “What day is it today?” “How’s the weather?”	●各カード (気分、曜日、天気を表す絵カード)
2. Warm-up (Singing) —“How’s the weather?”を歌う。	●CD ☆歌詞の内容に合った振りで、踊りながら楽しく歌う。
3. Activity I —動物ジェスチャークイズで復習する。 ※指導者や児童が前で動物のジェスチャーをし、それがどの動物か当てるクイズをする。	☆一通り前時に学習した動物ジェスチャークイズをした後、指導者がランダムに動物名を言い、みんなでその動物のジェスチャーをして楽しむ。
4. Activity II —“Old MacDonald Had a Farm”を歌う。	●CD ☆児童は、動物の鳴き声部分のみを歌う。
5. End of Lesson — “Goodbye Song”を歌う。	●CD

☆ワンポイント

動物名のアクセントに注意

☆評価

積極的に参加できているか。

学年 (3) 年

学校での英語学習歴

(規定なし)

単元学習のタイトル

(時間を言おう！)

単元でのながれ (本時に☆印)

1 時間目	数字 (1 ~ 2 0)
2 時間目	☆時間を聞こう！時間を言おう！ 1
3 時間目	☆時間を聞こう！時間を言おう！ 2

授業案

学習活動	☆留意点 ●準備するもの ◎資料など
<p>○ 1 ~ 2 0 までの数をみんな数える。</p> <p>○ Eye Contact Game をする (ルール) 絶対にしゃべってはいけません。 先生の言う数の人数が起立できれば拍手する。 誰が立つかはお友達の様子を見て自分がどうすればよいか考えます。</p> <p>○ CD を聞く</p> <p>○ “Quiz をします。” (What time? What time? What time is it? パンパンパン。 It's three o'clock.)</p> <p>○ もう 1 回する。手をたたく回数を数える。 (What time? What time? What time is it? パン。 It's one o'clock.)</p> <p>○ 時計を配る (班に 1 つ)</p> <p>○ もう 1 回する。手をたたく回数を数える。 (What time? What time? What time is it? パンパンパンパンパン。 It's five o'clock.)</p> <p>○ 班で時計を 5 時にあわせて、1 班ずつ時計を見せながら It's five o'clock. と 言わせる。</p> <p>○ もう 1 回する。手をたたく回数を数える。 (What time? What time? What time is it? パンパンパンパンパンパンパンパンパンパン。 It's ten o'clock.)</p> <p>○ 班で時計を 1 0 時にあわせて、1 班ずつ</p>	<p>☆留意点 ●準備するもの ◎資料など</p> <p>●算数の授業で使う時計 Apricot Learning World I の CD</p> <p>☆先生の 3, 2, 1 の合図で立たせる。 (1 ~ 2 0 を使う)</p> <p>☆児童が答えられそうなら答えさせる。 ☆手をたたく数が時間になる。 ☆3 年生では It's にこだわらなくてもよい。</p>

<p>つ時計を見ながら It's ten o'clock.と言わせる。</p> <p>○ルールが定着したら、各班1問ずつ前に出てきて、手をたたく役をする。</p>	<p>☆すわっている児童は(What time?・・・)を歌う。</p>
---	--------------------------------------

☆ワンポイント

13と30、14と40のちがい
 自然な範囲で長さを引き伸ばす。強さよりも長さ。
 数字の練習をしておく

☆評価

What time チャンツをうたっているか。
 参加の度合い。
 数字1～10を言えているか
Eye Contact

中学年 (3・4) 年

学校での英語学習歴

(規定はないが、学習暦に応じて Activity I の内容を工夫すること。)

単元学習のタイトル

(ハロウィーン・パーティ)

単元でのながれ (本時に☆印)

1時間目	ハロウィーン関連の語彙と歌の導入
2時間目	前時の復習とハロウィーン・ゲーム
3時間目	☆ハロウィーン・パーティ

授業案

学習活動	☆留意点 ●準備するもの ◎資料など
4. Greeting ーゲストの紹介	☆ゲストは、事前に校区中学校の AET 等に 来てもらうよう手配しておく。
2. Warm-up ーハロウィーンソングで歓迎する。	●CD、CDデッキ ◎『松香フォニックス“Halloween Song”』 ☆モンスターになって、楽しく踊りながら歌 う。
3. Activity I ーゲストにインタビューする。 “What’s your name, please?” “Where are you from?”	●マイク、スピーカー ☆事前に質問できるよう計画的に様々な表 現を時間をかけて指導しておくのが望まし い。
4. Activity II ーハロウィーンについてゲストから話 を聞く。(ハロウィーンの起り・ハ ロウィーンの思い出等)	☆事前にゲストと打ち合わせしておく。(ゲ ストは、自国でハロウィーンの実験がある人 を手配する。)
4. Activity III ーハロウィーン・ビンゴゲームで楽し む。	●ゲームに必要なもの (ビンゴシート) ☆事前に学習したハロウィーン関連用語の イラスト用紙とビンゴシートを児童に配 布し、各自シートにイラストを切り抜いて 貼りビンゴの準備をして持参させる。
5. Trick-or-Treating ー事前に作った手作りのコスチューム に着替え、グループ毎に校内を “Trick, or treat!” と言いながら、スタ ンプラリーする。	●衣装、スタンプラリーシート、スタンプ ◎ 事前に図画工作の時間等で仮装用のコス チュームを各児童に作らせておく。 ◎ 校内の幾つかの教室をチェックポイン トとして、スタンプラリーする。

☆外国の文化だけでなく、日本のおまつりとの比較なども盛り込む。

ハロウィンについての知識を日本語で説明してあげてもよいのでは。

Trick-or-Treat の意味を教える。

☆評価

異文化体験

直接交流

学年 (4) 年

学校での英語学習歴

(規定なし)

単元学習のタイトル

(1～99を言おう!)

単元でのながれ (本時に☆印)

1時間目	☆数字を聞こう!数字を言おう! 1
2時間目	☆数字を聞こう!数字を言おう! 2

授業案

学習活動	☆留意点 ●準備するもの ◎資料など
<p>○1～20までの数をみんな数える。 ○Eye contact Game をする。 (ルール) 絶対にしゃべってはいけません。 先生の言う数の人数が起立できれば拍手する。 誰が立つかはお友達の目を見て自分がどうすればいいか考えます。</p> <p>○12～19までのカードをリピートする。 (赤字)</p> <p>○20,30,40,50,60,70,80,90 のカードをリピートする。(黒字)</p> <p>○児童に読ませる。</p> <p>○12を読ませ、20を読ませる。 ○13を読ませ、30を読ませる。 ○14を読ませ、40を読ませる。 ○15を読ませ、50を読ませる。 ○16を読ませ、60を読ませる。 ○17を読ませ、70を読ませる。 ○18を読ませ、80を読ませる。 ○19を読ませ、90を読ませる。</p> <p>○カルタとりをする。</p>	<p>●12～19のカード 20,30,40,50,60,70,80,90 のカード 裏にマグネットを貼っておく クラスの人数÷2の分の上記と同じカードを用意する。</p> <p>☆先生の3, 2, 1の合図で立たせる。 (1～20を使う)</p> <p>☆teen のところを強調して音を伸ばすジェスチャーを交えて読む。 ☆ty のところを強調して音が短いことがわかるようなジェスチャーを交えて読む</p> <p>☆ジェスチャーを交えて、曖昧な発音は先生の発音を聞かせてからもう一度読む。</p> <p>☆読めていればカードを混ぜて読ませてもよい。</p> <p>☆ペアにさせ、カルタとりできるようにする。</p>

☆ty と teen のちがい (長さの違い) については、AETの活用を

楽しい雰囲気

学年 (5) 年

学校での英語学習歴

(3年生から総合の時間などで1回程度の英語活動)

単元学習のタイトル

(行きたいところはどこかな?道案内してみよう)

単元でのながれ(本時に☆印)

1時間目	乗り物の名前を楽しんでいう。方向の言い方に親しむ。
2時間目	☆建物、店などの名前を楽しく言う。道案内をして楽しむ。
3時間目	校区内の道案内をして楽しむ。
4時間目	宝物のありかを地図上から探し、実際にみつけて楽しむ。

授業案

学習活動	☆留意点 ●準備するもの ◎資料など
1. あいさつ Good morning, everyone. How are you? How is the weather?	☆たくさんの子どもに声を出させる。 ☆fine 以外のたくさん言葉で答えさせる。 ☆既習の質問をたくさん練習させる。
2. 歌 Let's make a circle and sing.	●CD、CDデッキ ☆London Bridge など既習の歌
3. 復習 Look at the picture. (自分の顔を描いた磁石を地図上に置く。) Where is the father and mother? (子どものいうとおりに磁石を動かす。) Good. Well done. (同様に何度かくりかえす。)	●大きな絵地図を前に掛ける。 ●磁石(自分の顔を貼っておく) ☆児童にどンドン方向を言わせる。 left right up down stop
4. 新表現の練習① (自分の顔を描いた磁石を地図上に置く。) Where is the school? (子どもたちは上記3のように答えるが、新しく教師が次の表現で、磁石を動かしながら、答える。) Go straight. Turn to the left (right). 地図上で磁石をまっすぐ動かしたり、左右に曲げながら、表現の練習をする。	☆straight turn をいうときには、磁石をわかりやすく動かす。 ☆left right などは子どもたちにも同時に言わせる。
5. 新表現の練習② どこで曲がるかをいうときは、 at the shop (park, building, station) いろいろな場所を地図上で示して、声に出して練習をする。	☆まず地図上の場所の名前を、早押しゲームで、子どもたちに言わせて確認する。 ☆全員練習、列で練習、ペア練習。

<p>6. Go straight. Turn to the left (right) at the shop. と続けて道案内を試みる。 (Where is? の質問から始める。) Ready action. のかけ声をする。</p> <p>7. 体を使って道案内の動きを試みよう。 Stand up. Are you ready? Turn to the left (right). Go straight.</p> <p>8. 終わりのあいさつ It's time. Let's sing "Good-bye song". I want to go to the rest room. Where is it? (子どもたちにトイレまでの道案内を表現させてから) Thank you very much. See you.</p>	<p>☆子どもを何人か指名し、前で教師から質問する。 ☆次は子どもが質問係と答える係の両方をする。</p> <p>☆右、左を向いたり、前後に歩いて、道案内表現をからだで表す。</p> <p>●メトロノーム (リズムにあわせて質問し、同時にからだを動かす。)</p> <p>●CD CDデッキ ☆元気よく一緒に歌う。 ☆トイレにいきたそうなジェスチャー。 ☆子どもたちに道案内表現をさせる。 Go straight and turn to the See you. Bye-bye. Good-bye.など。</p>
--	---

☆ワンポイント

自分が言える語彙、言えなくても理解できる語彙

地図の目印を英語で知っておく、日本語で言ってもよい

少し多めに調べておく

発音に注意するもの

right left go turn back

学年 (6) 年

学校での英語学習歴

(6 年時より初めて取り組む 30 分授業)

単元学習のタイトル

(英語で、数字に親しもう)

単元でのながれ (本時に☆印)

1 時間目	1～10 までの練習 ナンバーコールゲーム
2 時間目	1～10 までの復習 数字の伝言ゲーム 11～20 の練習
3 時間目	☆1～20 までの復習 21～30 の練習
4 時間目	1～30 までの復習 年齢の表現

授業案

学習活動	☆留意点 ●準備するもの ◎資料など
復習 歌「Seven Steps」 1～20 の口頭復習 電話番号聞き取りゲーム	● CD, CD デッキ ☆ジェスチャーつきで 英語を聞いて数字を紙に書きとる。 ☆学校や、公共施設の電話番号を使う ☆空港や、列車などの英語アナウンスを聞か せて、時刻や、搭乗口の数字を書き取る。 プラットフォーム、電車の番号
導入 21～30 を口頭練習	
展開 数字のビンゴゲーム 1～30 から 25 の数字を選んでビンゴ シートの記入する ビンゴになった生徒はスタンプ (賞品) を得る。	●ビンゴマシーン ビンゴシート ☆数の伝言ゲームなども

学年 (6) 年

学校での英語学習歴

(6年時から始めて、半年ほど経過、ネイティブスピーカーとの交流を控えている)

単元学習のタイトル

(相手にインタビューしよう)

単元でのながれ(本時に☆印)

1時間目	自己紹介の練習 既習の I am ~. I have ~. I like ~. を使って 6 文ほどで。
2時間目	☆疑問文の練習
3時間目	インタビューゲーム
4時間目	ネイティブスピーカーとの交流

授業案

学習活動	☆留意点 ●準備するもの ◎資料など
復習 前回の生徒の自己紹介文を読み、だれのことかを想像する。	● 自己紹介文
導入 May I have your name? Do you have any brothers or sisters? What sport do you like? Do you like Japanese food? What Japanese food do you like?	☆ JTE と AET との対話で慣れるようにする
展開 スフィンクスゲーム ・ 5人グループを作る。一人4枚ずつ質問カードを持つ。 ・ 順番に、教室の4隅に立っている解答者のところへ行き、自分の持っている質問カードの質問をして戻る。 ・ グループ内で持ち寄った答え(情報)をまとめてワークシートを完成したグループが勝ち。	☆ AET と JTE で4人の解答者が必要 ● 質問カード ワークシート

☆ワンポイント

自己表現は、何回かにわけて定着したものをくみあわせる。